



制作
長野県高等学校文化連盟
新聞 専門 部

第 10 号



2018信州総文祭

担当：
松本県ヶ丘高校新聞部
3年 赤沢 輝

来年度への準備万全

信州総文祭 放送部門プレ大会

「第14回北信越高等学校選抜放送大会」が2月11日(日)と12日(月)の2日間にかけて、岡谷カノラホールにて行われた。2018信州総文祭放送部門のプレ大会を兼ねたこの大会には、総勢約300名の生徒が参加し、それぞれビデオメッセージ、オーディオレクチャー、コマーシャル、アナウンス朗読といった分野に分かれて発表を行った。



イベントにはマスコットの「なび助」の姿も見られた

委員の練度向上

今年の全国総文祭を間近に控えた時期に行なわれた今回の大会は、夏の本番を見据えて活動した、実行委員の活躍が光った大会だった。放送専門部の生徒部長で松本蟻ヶ崎高校2年生の高野優香さんは、運営の目標として「各自で考えて行動すること」をおいた。スタッフに臨機応変な対応を取る力を付けさせるために、あえて細かい指示は出さずに

委員たちの活動を見守った。目論見はうまくいき、いくつかの箇所でも困った場面も発生したものの、生徒個々の能力を発揮させることで、2日間の大会の進行を無事に終えることができた。高野さんは「皆さんのクルーとしての意識の高さを感じた」と、協力してくれた人々に対しての感謝の言葉を述べた。

閉会式の司会を担当した吉丸楓さんは、今回のプレ大会を通してうまくいった点、改善するべき点がたくさん見つかったと語り、本大会に向けては、「どんな企画を設置するか、どうすればより快適な『宇宙船』になるか、実行委員を中心として長野の放送部員が自ら考えて、素敵なN・B202号に、そしてより充実した大会を作っていきたい」というコメントを残した。

生徒間で交流深める

今回の大会のテーマは、「見つめて結ぶあなたの青春」。これには高校生の放送上にける情熱を見つめて、その思いを



壇上で発表を行なっている生徒

ここ信州で仲間と結んでほしい、という思いが込められている。そのテーマをなぞるように、大会では

各部門の審査だけでなく、生徒の地元の『インスタ映え』スポットの紹介コーナーという、北信越の高校が集まることを活かしたコーナーや、活動で製作した番組の交換といった、生徒同士の交流を意識した試みが多く行なわれた。

北信越は全国で見れば人口が少ない地域であるものの、参加者たちは他県の生徒と読々について語り合ったり、番組を見せ合ったりする中で、互いに活動の技術を学び合っていた。

来年度の構想

全国総文祭での放送部門は、会場である岡谷カノラホールを「宇宙船」、実行委員を「乗組員(クルー)」に見立てて、他の都道府県(他の星)から来た生徒たちを迎える。会場の不便な点を見せ場として逆利用し、訪れる人に楽しんでほしい

という狙いだ。演出面を強化するた



会場では「なび助」と記念撮影もできた

め、本番では会場の装飾や進行のアナウンスも専用のものに工夫する考えた。今回のプレ大会で実施されたコマーシャル部門も、他にはない試みとして特設される。今年の全国総文祭の放送部門は、例年とは少し違った雰囲気を楽しむことができるだろう。